

2010年 槍ヶ岳飛騨沢滑降の記録

横須賀山岳会 鳥切昇治記

1. 山域・山名 北アルプス：槍ヶ岳 (3,180m)
2. 期 日 2010年5月2日 (日)
3. メンバー 鳥切昇治・(大和義孝・横山高明)



古希を8日後に迎え、60台最後のBCスキー(バックカントリースキー)になるのか?今回は槍ヶ岳の飛騨沢を滑って来た。前日、OB会メンバーの大和さんと横山さんの3名で新穂高から槍平に入り、テントを設営。5月2日、槍平から飛騨沢を詰めて槍ヶ岳肩に登り、鳥切が飛騨沢を滑降した記録である。

5月2日(日) 天候：晴 槍平～槍ヶ岳

昨夜の冷え込みで雪は固く締まっている。仲間二人のアイゼンで歩くシャリ、シャリと言う音を聞きながらスキーを滑らせて登って行く。50分程登り、振り向くと北穂から西穂の山々の眺めが素晴らしい。滝谷ドームの黒々とした岩壁が威圧的である。沢筋のここにはまだ日が射してこないが、寒さは余り感じない。

狭い沢筋を抜けると広大な斜面に出る。シールが利いて直登して行く。高度が上がるに従い眺望が開けてくる。後方には笠ヶ岳、双六岳、前方には西鎌尾根、槍に似た岩峰が威圧的に聳えている。沢筋を右手の方に緩く曲りながら登って行く。槍ヶ岳山荘が稜線に見えてくる。仲間二人もトレースに沿って登って来る。



飛騨沢を登る二人

斜度が急になってきて斜登行を繰り返し登って行く。アイスバーンの所でエッジが利かないため、アイゼンに履き替え、登って来た二人と合流する。



アイゼンに履き替え登る

そこを抜けると傾斜も緩むが、スキーに履き換えるのも面倒なのでアイゼンで二人の後を追う。スキー靴での直登は辛い。

飛騨乗越に着いた。風が強く、寒く感じる。槍の穂が威圧的に聳えている。槍沢を大勢の人が登って来るのが見える。稜線を槍ヶ岳山荘まで登る。

スキー靴では、槍ヶ岳山頂に登るのが難しいので登頂は諦める。二人も登らないと言う。槍ヶ岳山荘の中で大休止。一時間ほどいて支度をして外に出ると、風も収まり暖かい。槍沢を覗くと蟻の行列。

スキーで滑れる所まで行き、岩に気を付けて横滑りで飛驒乗越まで下る。いよいよ滑降開始。上部のアイスバーン状の所を慎重に滑る。登る時にアイゼンに履き換えた所で大和さんにビデオ撮影を依頼して滑り始める。アイスバーンを通過すると予想外に快適に滑る。大和さんが下りて来るのを待ってビデオ撮影を頼み、再び滑る。快適、快適。二人とは離れてしまったので、マイペースで滑る。下るに従い、雪質が変りザラメ状の所を選んで滑る。笠ヶ岳を見ながらの大斜面の滑降は最高。沢状の所を下り切った所で、二人を待って大休止する。北穂から西穂の山々を眺めながらのコーヒータイムは何にも換え難い至福の時である。三人が合流して一休みした後、槍平に下る。



アツと言う間にテントサイトに着いてしまい、二人を迎えるお茶の準備に入る。記憶に残る楽しく滑ったバックカントリースキーであった。



山行記録

- ・ 5月2日（登り：4時間20分、下り：2時間40分） 大斜面の滑降
 槍平6：00－9：50 飛驒乗越 10：00－10：20 槍ヶ岳山荘 11：50－14：30 槍平
 - ＊スキー登行は槍平から槍ヶ岳山荘までおよそ3～3.5時間、槍平までの滑降は、40分～1時間程度である。
 - ・ 5月1日（入山：およそ7時間）
 ロープウェイ駅6：25－9：04 白出沢出合（林道終点）9：17－滝谷出合 12：00－13：30 槍平（標高：1991m）
 - ・ 5月3日（下山：およそ5時間）
 槍平7：20－8：00 滝谷出合 8：10－10：57 穂高平小屋 11：10－12：03 ロープウェイ駅－12：17 駐車場
- 以上